

関西学院大学 教職課程別表

学則第41条に定める教員の養成に関する理念・目的は次のとおりとする。

関西学院大学における教員養成に関する理念と目的			
<p>関西学院は、1889年（明治22年）にアメリカ南メソヂスト監督教会の宣教師W.R. ランパスによって、「キリスト教主義に基づく人間形成」を建学の精神として創設された。これを端的に表現しているのが、「Mastery for Service」（奉仕のための練達）であり、「奉仕の精神を支える練達」と解されている。本学はこれをスクールモットーに掲げ、キリスト教主義を教育理念とし、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、人格の陶冶を目的とし、全人的教養とともに専門的知識・技能および高い研究能力を備え、それを社会に還元できる学生を育成している。</p> <p>そして、教員養成においてもキリスト教主義をその理念とし、1924年（大正13年）に英語科において中等学校教員無試験検定資格が付与されて以来、「Mastery for Service」の大切さを知り、教育の場を通してそれを実践できる教員、つまり「関学らしい教員」の育成を目的とし以下のような資質・能力を備えた人材を学校現場に輩出し続け、斯界を含め各方面から高い評価を得ている。（・資質：①真なるもの崇高なるものへの洞察と畏敬の念を持つ。②人間及び自然に対する尊敬を重んじ、確かな人権意識を持つ。③人種・国籍を越えてすべての人々と係わり、支え合おうとする姿勢を持つ。④社会の変化に対応し、いかなる困難にも立ち向かうことのできる芯の強さと柔軟性を持つ。・能力：①高度な専門性を備えた学部教育を通じて、深い学問的知識と探究心を有す。②教職課程のカリキュラムを基礎とした幅広い人間理解と、確かな実践的指導力を有す。）そして現在、本学の建学の精神を体現し、本学院創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民を育成するとともに、総合大学の特色を生かし、教職課程のカリキュラムによる専門的知識及び、学部教育に基礎を置く学問的知識を獲得し、グローバルな視野で、幅広く確かな実践的指導力を持った教員を養成することを目指している。</p>			
神学部における教員養成に関する理念			
<p>神学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、「人間を自然と社会、思想と文化との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、今日における生の意味や生きることの規範を見出して、それをキリスト教の福音に基づいて広く他者に伝え、社会に奉仕する人材を育成すること」を教員養成の理念としている。</p>			
教員養成の目的	中学校1種	宗教	中学教科科においては宗教についての基本的知識の習得が求められる。本学部において旧約聖書、新約聖書、キリスト教についての専門的な知識ならびに宗教全般についての基本的な知識を修得することを通して、宗教、特にキリスト教についての知識と理解を持った教員を養成する。
	高等学校1種	宗教	高校教科科においてはキリスト教に関する基本的な知識を基盤として、宗教ならびに宗教と社会との関わりに関する広い知識と理解を身につけることが求められる。本学部においてキリスト教ならびにその文化、その社会との関係、諸宗教についての知識と理解を修得することを通して、キリスト教の視点から社会の問題に取り組むことができる教員を養成する。
	高等学校1種	公民	高校公民科においては社会に関心を持ち、社会に参与するために必要な法律・政治・経済に関する知識と人権の福祉や世界平和に対する理解と感覚を身につけることが求められる。本学部においてキリスト教に関する基本的・専門的科目はもとより、キリスト教と社会との関わりについて学ぶことを通して、人権意識と人間の命の尊重についての理解を身につけた教員を養成する。
文学部における教員養成に関する理念			
<p>文学部は、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、人間存在と人間の営み・文化に関わるあらゆる問題を追究する人文学の教育研究機関として、特に次のような教員の育成を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な学問領域を学修し、均整のとれた柔軟な思考能力を持った教員。</li> <li>○主体的に設定した課題を自己の力で解決できる能力を有する教員。</li> <li>○よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る教員。</li> </ul>			
文化歴史学科	中学校1種	社会	文学部文化歴史学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文の作成を通して、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、日本史概説や哲学概説などの科目を通して、中学校の教育現場で、人間社会への深い洞察に基づきながら、地理、歴史、公民という各分野について専門性に裏付けられた指導を行い、生徒の考える力や生きる力を育成することのできる社会の教員の養成を目指している。
	高等学校1種	地理歴史	文学部文化歴史学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文の作成を通して、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、日本史概説や地理学概説などの科目を通して、高等学校の教育現場で、専門性に裏付けられた教科の指導を行い、生徒が自ら考える問題を解決する能力を身につけさせるとともに、地理歴史という分野を学ぶことで習得しうる国際性や歴史感覚を教育することのできる教員の養成を目指している。
	高等学校1種	公民	文学部文化歴史学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文の作成を通して、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、心理学概説や哲学概説などの科目を通して、高等学校の教育現場で、専門性に裏付けられた教科の指導を行い、生徒が自ら考える問題を解決する能力を身につけさせるとともに、高い倫理観と豊かな人間性を涵養することができるように導く教員の養成を目指している。
	高等学校1種	公民	文学部総合心理科学科では、実証科学的な問題探求と知識に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、心理科学に関する専門用語の習得や英文読解力を養い、実験実習科目を通じて基礎的知識や技術を養成するとともに、より高度な専門的な研究能力の養成を行い、学生が自ら設定した問題を解決するという目標に従い卒業研究を行っている。こうした学科の中で、以上の教育課程に基づき、発達心理学や学習心理学などを通して、よき市民としての高い倫理観を持ち、生徒に人間の在り方や生き方について考えさせ、理解させることのできる教員の養成を目指している。

教員養成の目的	文学言語学科	中学校1種	国語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈や書法の研究などを通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、日本語学概論、日本文学概論、国語表現法や書道などの科目を通して、日本語および日本文学に関する専門性と同時に幅広い視野と豊かな教養を持ち、中学校の教育現場で必要な「話す・聞く」「書く」「読む」などの能力についての指導力を有する教員の養成を目指している。
		高等学校1種	国語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、日本語学概論、日本文学概論や国語表現法などの科目を通して、専門性に裏打ちされた教科指導を行い、「話す・聞く」「書く」「読む」などの国語を的確に表現し、的確に理解する能力について高校生が習得できるよう導くことができる教員の養成を目指している。
		中学校1種	英語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、英米文学概論、英語学概論、異文化理解や英語（Speaking）Iなどの科目を通して、確かな国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」などの能力についての指導力を有する教員の養成を目指している。
		高等学校1種	英語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、英米文学概論、英語学概論、異文化理解、英語（Speaking）Iなどの科目を通して、確かな国際感覚を持ち、高度な専門的知識に基づきながら、「オーラル・コミュニケーション」「リーディング」「ライティング」などの高等学校における英語教育の指導力を有する教員の養成を目指している。
		中学校1種	フランス語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、フランス文学概論、フランス語学概論、異文化理解（フランス）やフランス語（総合）AIなどの科目を通して、フランスの文化や文学を基礎とする国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、中学校の教育現場で必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの能力についての指導力を有する教員の養成を目指している。
		高等学校1種	フランス語	高校フランス語科において、文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、フランス文学概論、フランス語学概論、異文化理解（フランス）、フランス語（総合）AIなどの科目を通して、フランスの文化や文学を基礎とする国際感覚を持ち、専門的知識に基づきながら、「オーラル・コミュニケーション」「リーディング」「ライティング」などの高等学校におけるフランス語教育の指導力を有する教員の養成を目指している。
		中学校1種	ドイツ語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、ドイツ文学概論、ドイツ語学概論、異文化理解（ドイツ）やドイツ語（総合）IIIなどの科目を通して、ドイツの文化や文学を基礎とする国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、中学校の教育現場で必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの能力についての指導力を有する教員の養成を目指している。
		高等学校1種	ドイツ語	文学部文学言語学科では、人文学的素養に立脚した知性と品格を備えた人材を育成するため、第1学年から第3学年において、文献資料の読解や作品やテキストの解釈を通して、幅広い知見と豊かな教養を身につけると同時に専門領域における高度な学識を習得し、第4学年において卒業論文を作成することで、調べ、考え、まとめ、表現するという知の実践を行っている。以上の教育課程に基づき、ドイツ文学概論、ドイツ語学概論、異文化理解（ドイツ）やドイツ語（総合）IIIなどの科目を通して、ドイツの文化や文学を基礎とする国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、「オーラル・コミュニケーション」「リーディング」「ライティング」などの高等学校におけるドイツ語教育の指導力を有する教員の養成を目指している。
社会学部における教員養成に関する理念				
<p>社会学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教員の育成を目指している。</p> <p>○自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている教員。</p> <p>○現代社会やそこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている教員。</p>				
教員養成の目的	社会学科	中学校1種	社会	社会学を核とする幅広い学際的な知識を身につけ、社会やそこに生きる人々が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につけている教員の養成を目指す。
		高等学校1種	地理歴史	グローバル化にともなう社会現象や国際的な諸問題についての知識を身につけ、社会的な事象を幅広い歴史的・空間的な位相の中で把握するための知識と洞察力を身につけている教員の養成を目指す。
		高等学校1種	公民	社会的な視点と思考力（社会的想像力）を身につけ、社会やそこに生きる人々が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、論理的かつ実証的な思考や判断ができる教員の養成を目指す。

法学部における教員養成に関する理念

法学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、さらに学部独自の「ソーシャル・アプローチ」という教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。

1. 〔関心・意欲〕 法学や政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する者。
2. 〔知識・理解〕 広い社会的視野と教養を有し、法学または政治学の専門的知識を修得している者。
3. 〔技能・表現〕 グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する者。
4. 〔思考・判断〕 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法律学科学生においては法的思考（リーガル・マインド）を、また政治学科学生は市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている者。

教員養成の目的	法律学科	中学校1種	社会	法学部を総合的に学ぶことにより得られる法的思考（リーガル・マインド）を身につけ、さらに本学部の理念であるソーシャル・アプローチの下での、市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を理解する教員の養成を目指す。また、本学科で開講されている「国際社会と法」「イスラームの法と社会」「E U法」など種々の国際的、先端的な法学の科目は、広く国際的な視野を有する教員養成に資するものである。
		高等学校1種	地理歴史	地理歴史に関する深い理解に基づいた教育の出来る教員の養成を目指す。本学科で開講されている、「日本法史」「西洋法史」などの各法史系の科目や、「英米法」など外国法系の科目は、それらを履修することにより高い専門性や国際的な視野を有する教員の養成に資するものである。
		高等学校1種	公民	リーガル・マインドを身につけ、本学部の理念であるソーシャル・アプローチの下での、市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解する教員の養成を目指す。本学科では「現代の人権」「国際社会と法」「行政学」「法理学」といった様々な観点から社会を見ることに資する科目が提供されており、これらを履修することにより、学生は教員として必要な幅広い視野を得る事が出来る。
	政治学科	中学校1種	社会	政治学を総合的に学ぶことにより得られる市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけ、さらに本学部の理念であるソーシャル・アプローチの下での、市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を理解する教員の養成を目指す。また、本学科で開講されている「国際政治論」「地方自治論」「比較政治」などの種々の国際的、現代的な政治学の科目は、広い視野を有する教員養成に資するものである。
		高等学校1種	地理歴史	地理歴史に関する深い理解に基づいた教育の出来る教員の養成を目指す。本学科で開講されている、「西洋政治史」「日本政治史」「外交史」などの各政治史系の科目や、「アメリカ地域の政治」「ヨーロッパ地域の政治」「中東・アフリカ地域の政治」など外国政治に関する科目、「社会地理学」「地誌」などの地理学に関する科目は、それらを履修することにより歴史的、地理的思考力を養い、高い専門性や国際的な視野を有する教員の養成に資するものである。
		高等学校1種	公民	市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけ、本学部の理念であるソーシャル・アプローチの下での、市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解する教員の養成を目指す。本学科では「西洋政治思想史」「日本政治思想史」「地域政策論」「NPO/NGOと市民社会」といった様々な観点から社会を見ることに資する科目が種々提供されており、これらを履修することにより、幅広い視野を得る事が出来る。
		中学校1種	英語	本学部は、カリキュラムの重点項目に「市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めること」、「複数の言語によるコミュニケーション能力を修得し、多文化理解を促すこと」を挙げており、国際的視野を深化し、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけた教員の養成を目指す。本学科で開講されている「アメリカ地域の政治」「ヨーロッパ地域の政治」などの種々の国際的な政治学の科目や、「言語政策論」といった言語と政治との関わりを考える科目は、これらを履修することにより、国際的、多角的な視野に裏打ちされた英語教育の出来る教員の養成に資するものである。
		高等学校1種	英語	本学部は、カリキュラムの重点項目に「市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めること」、「複数の言語によるコミュニケーション能力を修得し、多文化理解を促すこと」を挙げており、これらを身につけた教員の養成を目指す。本学科では「アメリカ地域の政治」「ヨーロッパ地域の政治」「アジア地域の政治」「国際協力論」「国際機構論」などの国際的な政治学の科目が種々開講されており、これらの専門的な科目の履修は、高い専門性と広い国際的な視野をベースに持ちつつ生徒に英語教育の出来る教員の養成に資するものである。また、英会話や英文文の授業を通じて、情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりすることのできるコミュニケーション能力を養うことにも力点を置いている。

経済学部における教員養成に関する理念

経済学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。

1. 経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な思考力を身につけ、日本や世界の経済事情、歴史、言語、文化、そして宗教に関する基本的な知識をもった教員。
2. 世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持ち、日本語および1つ以上の外国語の修得に基づいた、コミュニケーション能力をもち、他者と協力し社会に貢献する意欲をもった教員。
3. 基本的な情報処理技術に基づいた経済データ分析能力を備え、経済学的思考力に基づいて現実の社会や経済の事象についての判断能力を備え、現実の社会や経済での活動や生活のなかで課題を発見し、解決する能力を備えた教員。

教員養成の目的	中学校1種	社会	経済学と関連の深い現代社会・政治経済分野を中心に、地理歴史的分野をも含む「中学社会」全般を俯瞰できる教員の養成を目指す。教育課程に基づき、経済と経済学の基礎、経済の歴史と思想、経済学のための教学入門などの科目を履修することで、経済学的思考力を習得し特定分野への理解だけでなく幅広い「社会」全般への知識習得を必要とする。また経済学部では、経済学のみならず、歴史、文化、宗教等現代社会の理解に不可欠な分野の知識習得を可能とするカリキュラムによる教育で、こうした要請に応えられる教員養成を行う。
	高等学校1種	地理歴史	教育課程に基づき、日本史概説や西洋史概説、ならびに地理学概論を必修として履修することで、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、高等学校の教育現場で専門性に裏付けられた教科の指導を行い、生徒が自ら考える問題を解決する能力を身につけさせるとともに、地理歴史という分野を学ぶことで習得しうる国際性や歴史感覚を教育することのできる教員の養成を目指している。また経済学の基本的な概念を理解し、論理的思考力を身につけ、社会科学的な観点からものを見る力を持ち、情報処理技術に基づいたデータ分析をも踏まえつつ、ますます諸外国とのつながりを増す現代に生きる高校生への地理歴史的分野の教育に不可欠な、世界の様々な地域の人々や文化への共感する力も備え、後期中等教育における「地理歴史」の教育を担える教員養成を行う。
	高等学校1種	公民	経済学の基本的な概念を理解し論理的思考力を身につけ、社会科学的な観点からものを見る力を持ち、情報処理技術に基づいたデータ分析をも踏まえつつ、経済活動のグローバル化の進展やインターネットなどの情報メディアの発達により増加した、「民主国家」の国民として、その知識の習得が重要となる高等学校での「公民」の教育を担える教員養成を行う。
	中学校1種	英語	経済学部では、TOEIC受験の義務付けや、英語を母語とする教員による英会話の授業を必修とし実践的教育を行っている。また経済学部の専門科目である外国経済史、アジア経済論、国際経済学などの履修を通じて英文学や歴史学などの人文科学のみならず、社会科学的な考え方を習得することにより、義務教育段階における「英語」の教育を担う。また教育課程に基づき、英米文学概論、英語学概論、異文化理解や英作文（特）などの学習を通して、確かな国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、中学校の英語教育の現場に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの能力についての指導力養成を行う。
	高等学校1種	英語	高校英語科において、経済学の基本的な概念を理解し論理的思考力を身につけ、社会科学的な観点からものを見る力を持ち、経済活動のグローバル化の進展やインターネットなどの情報メディアの発達により、広く世界の人々とのコミュニケーションが必要となる高等学校生徒に、人文科学を素材のみならず社会科学的な素材をも用いた幅広い後期中等教育における「英語」の教育を担う。教育課程に基づき、英米文学概論、英語学概論、異文化理解や英作文（特）などの学習を通して、確かな国際感覚を持ち、幅広い視野と豊かな教養に基づきながら、高等学校の英語教育の現場に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの能力についての指導力養成を行う。

商学部における教員養成に関する理念

商学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念「真に創造的な能力を有するビジネス・パーソンの育成」の下、特に次のような教員の育成を目指している。

- 専門的知識と技能を修得する意欲にあふれ、それによる教育を通じて社会に奉仕しようとする積極的な意識と姿勢を有する教員。
- 問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から現象を的確に判断し行動する能力を有する教員。
- 社会経済構造や歴史的文化的背景を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する教員。

教員養成の目的	高等学校1種	商業	本課程では、商業の各分野についての基礎的・基本的知識と技術、総合的教養、高いコミュニケーション能力を習得させ、現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割を理解させるとともに、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する創造的能力と実践的態度を育成できる教員の養成を目的とする。
	中学校1種	社会	本課程は、経営、マーケティング、ファイナンス等のビジネス・パーソンとしての高度な専門知識と民法、企業法、会社法等の法律の知識を提供する。そしてその知識を軸とし、我が国及び世界の地理と歴史についての理解と認識を生かし、社会的諸現象を広い視野から多面的・多角的、理論的・実証的に考察する能力と、それによって我が国、社会に対する理解を深め、社会への奉仕者としての意識と積極的な姿勢を有する公民としての基礎的教養を培う。本課程は、こうした学びを通じて、多元的社会的なかで社会経済構造や歴史的文化的背景を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と公民的資質の基礎を育成できる教員の養成を目的とする。
	高等学校1種	地理歴史	本課程では、商学部での学びによって得られる経営史や商業史、金融史などのビジネス史の知識を軸として、我が国及び世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を生かし、論理的考察力と多面的な視点をもって物事を的確に判断する能力と、歴史や生活・文化を異にする国際社会との共生を主体的に図り、平和で民主的な国家・社会を形成する世界市民、日本国民として必要な自覚と資質を育成できる教員の養成を目的とする。
	高等学校1種	公民	本課程は、経営、マーケティング、ファイナンス等のビジネス・パーソンとしての高度な専門知識と民法、企業法、会社法等の法律の知識を提供する。そして、本課程は、これらの学びを通じて、社会的諸現象を広い視野から多面的・多角的、理論的・実証的かつ主体的に考察・理解・判断する能力と、それらを通じて学びうる公民についての基礎知識と専門知識、高いコミュニケーション能力、さらには多元的社会的なかで社会経済構造や歴史的文化的背景を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と公民的資質の基礎を育成できる教員の養成を目的とする。
	中学校1種	英語	商学部では、社会科学的素養と真に創造的な能力を有した人材を育成すべく、論理的考察と多面的総合的かつ国際的な視点から諸現象を的確に理解・判断し、適切に伝えるといったグローバルマインドとコミュニケーション能力とを育成できる教員の養成を目指している。 本課程では、文学作品やビジネス英書の講読を通じて、鑑賞力や情操の育成をはかりながら英語の読解力とコミュニケーション能力を高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方を習得した教員の養成を目標としている。また、英語教育の現場に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの英語能力自体の育成に留まらず、商学部のカリキュラムの中に独自の国際関連科目を多数設置し、それらの科目による教育を通して言語や国、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立ち積極的なコミュニケーションを展開出来る人材の輩出を目指している。
	高等学校1種	英語	商学部では、社会科学的素養と真に創造的な能力を有した人材を育成すべく、論理的考察と多面的総合的かつ国際的な視点から諸現象を的確に理解・判断し、適切に伝えるといったグローバルマインドと高度なコミュニケーション能力と発信力を育成できる教員の養成を目指している。 本課程では、文学作品やビジネス英書の講読を通じて、鑑賞力や情操の育成をはかりながら英語の読解力とコミュニケーション能力を高めるとともに、英語文化圏の社会や伝統、それに基づく発想や考え方を高度に習得した教員の養成を目標としている。また、英語教育の現場に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」などの英語能力自体の育成に留まらず、商学部のカリキュラムの中に独自の国際関連科目を多数設置し、それらの科目による教育を通して言語や国、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点と発信力を有し、積極的なコミュニケーションを展開出来る人材の輩出を目指している。

総合政策学部における教員養成に関する理念

総合政策学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。  
 本学部には総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策という4つの学科を設置しているが、その4学科は共通して、Think Globally, Act Locally.の発想のもと、地球レベルでの持続可能な発展をめざすために、現代の多様な課題を分析し、理論と実践の統合をはかり、問題解決への実行可能な対策や企画を立案・実践できる専門力と総合力を涵養している。また学部全体で英語教育および情報処理教育、プレゼンテーション教育を重視し、自然科学と社会科学にまたがる各学科における専門分野を学際的に学ぶカリキュラムを有している。このような学部教育を経て、英語、社会、公民、情報の科目に共通して地球的視野に立つ総合的な視点、実際的な問題解決能力、多様な文化・価値観を寛大に受容する異文化理解能力と、高い人権意識、環境倫理観を備えた教員の育成を目指している。

教員養成の目的	総合政策学科	中学校1種	社会	総合政策学科では、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、地球規模の持続的な発展に必要な政策を立案し遂行していく能力を有する人材育成を目指している。社会を「自然環境」「社会・経済・技術システム」「言語・文化・思想」の3層構造で捉え、「環境政策論」、「公共哲学」「社会福祉論」などの科目を設け、自然と人間ならびに人間と人間の共生関係を分析している。複雑化する現代社会の課題を分析する上では、このような俯瞰的・総合的な視点を重視し、現場感覚を養うために数多くの実習を展開している。社会科学諸分野と文理融合の学際的分野を横断的に学ぶ教育課程を経た本学科の学生が持つ資質は、中学校における社会科の教育実践において大いに貢献できよう。
		高等学校1種	公民	総合政策学科では、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、地球規模の持続的な発展に必要な政策を立案し実践的に寄与できる能力を有する人材育成を目指しており、広く現代社会にかかわる問題を横断的に学ぶことができる。社会を「自然環境」「社会・経済・技術システム」「言語・文化・思想」の3層構造で捉え、「環境政策論」、「公共哲学」「社会福祉論」などの科目を設け自然と人間、人間と人間の共生関係を分析している。複雑化する現代社会の諸課題を分析する上ではこのような俯瞰的・総合的な視点を重視し、現場感覚を養うため、数多くの実習を展開している。こうした本学科の学生が持つ資質は、高等学校における公民科の教育実践において大いに貢献できよう。
		中学校1種	英語	グローバル化した現代社会では、英語で自分の意見を表現する能力は極めて重要である。総合政策学部では発信型英語運用能力を2年にわたり養う英語教育プログラムを展開している。プログラムは、英語で講義される専門教育科目と密接に連携を保ち、総合的な英語コミュニケーション能力を養成している。「Comparative Culture」、「Intercultural Communication」などの科目を通して異文化理解、コミュニケーションの基本となる視点を修得できる。中学英語科においては、義務教育の中での英語教育において、多文化共生社会を言語・文化・制度レベルで実現できる教員の育成を目標とする。
		高等学校1種	英語	グローバル化した現代社会では、英語で自分の意見を表現する能力は極めて重要である。総合政策学部では発信型英語運用能力を2年にわたり養う英語教育プログラムを展開している。プログラムは、英語で講義される専門科目と密接に連携を保ち、総合的な英語コミュニケーション能力を養成している。「Comparative Culture」、「Intercultural Communication」などの科目を通して異文化理解、コミュニケーションの基本となる視点を修得できる。高校英語科においては、後期中等教育の中での英語教育において、多文化共生社会を言語・文化・制度レベルで実現できる教員の育成を目標とする。
	メディア情報学科	高等学校1種	情報	近年急速に進歩した情報通信技術は、社会のあらゆる分野で不可欠なものとなっている。メディア情報学科では、幅広く社会科学諸分野を学びながら情報、メディアという視点から現代社会の問題を考察するために、諸学問領域での膨大な知識の蓄積を横断的に俯瞰するカリキュラムを設けている。「意思決定科学」で数理的思考と情報処理技術による問題解決法を身に付け、「情報化社会と人間」、「コンピュータサイエンス」などの科目で人を中心とする情報のあり方を考察する。先進科学技術や情報学に深い理解力を持ち、日常性の中で発見した問題に対する解決へのアプローチ法を体得した教員の育成を目指している。
	都市政策学科	中学校1種	社会	都市政策学科では、人々が暮らす都市や地域コミュニティといった生活空間に潜む多様な諸問題を発見し、それらを解決できる資質能力をもち、こうした能力を教科指導に活かしていくことができる教員の育成を目指している。「都市政治学」「都市財政学」「公共哲学」などの科目を通し、都市や社会の諸問題に関して、理論的なアプローチを行い、また演習科目では現場での実践感覚や経験を身につける。こうした他者とのコミュニケーション能力に優れた資質能力の育成は、中学校生徒に社会科を通じて変化する現代社会をみる目や地域社会の一員としての行動する力を育てていく上で、きわめて有益である。
		高等学校1種	公民	都市政策学科では、人々が暮らす都市や地域コミュニティといった生活空間に潜む多様な諸問題を発見し、それらを解決できる資質能力をもち、こうした能力を教科指導に活かしていくことができる教員の育成を目指している。「都市政治学」「都市財政学」「公共哲学」などの科目を通し、都市や社会の諸問題に関して、理論的なアプローチを行い、また演習科目では現場での実践感覚や経験を身につける。こうした他者とのコミュニケーション能力に優れた資質能力の育成は、高等学校生徒に公民科を通じて変化する現代社会をみる目や地域社会の一員としての行動する力を育てていく上で、きわめて有益である。

国際政策学科	中学校1種	社会	国際政策学科では、国際的感覚とコミュニケーション能力に秀で、地球規模の視野で考え、課題解決のために行動できる資質と能力を備えた教員の養成を目指している。ここで言う国際感覚とは、外国語能力に優れ外国の文化や慣習に通じていることだけを指すのではなく、現代社会が直面するグローバルな諸問題に関する知識と理解、さらにはこうした諸問題に対しグローバルな視点とローカルな視点の両方からアプローチできる知的・実践的な問題解決能力を持っていることを意味する。「国際関係論」「公共哲学」といった科目で国際政治や経済、地球環境問題や国際的な人権問題に関する知識と理解を修得する。こうした本学科の学生が持つ資質は、中学校における社会科の教育実践において大いに貢献できよう。
	高等学校1種	公民	国際政策学科では、国際的感覚とコミュニケーション能力に秀で、地球規模の視野で考え、課題解決のために行動できる資質と能力を備えた教員の養成を目指している。ここで言う国際感覚とは、外国語能力に優れ外国の文化や慣習に通じていることだけを指すのではなく、現代社会が直面するグローバルな諸問題に関する知識と理解、さらにはこうした諸問題に対しグローバルな視点とローカルな視点の両方からアプローチできる知的・実践的な問題解決能力を持っていることを意味する。「国際関係論」「公共哲学」といった科目で国際政治や経済、地球環境問題や国際的な人権問題に関する知識と理解を修得する。こうした本学科の学生が持つ資質は、高校における公民科の教育実践において大いに貢献できよう。

人間福祉学部における教員養成に関する理念

人間福祉学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。  
 今日の超少子高齢社会からの要請に応え、人間と社会、そしてその交互作用に関わる諸課題に対してソリューションを提供することによって、質の高い生活と社会の実現に貢献することを教育研究のミッションとし、「人間」とその生活環境としての「社会」、そしてその「交互作用」の中で生じる福祉ニーズをはじめとする様々な生活課題へのソリューションを見出し提供できる専門人材と、市民として地域および国際社会の福祉向上に貢献する人材育成を行うことのできる教員の育成を目指す。

社会起業学科	高等学校1種	公民	社会起業学科では、倫理学、社会学（財政社会学）、経済学、政治学、国際関係学などをカリキュラムの基本としつつ、自治体・企業・NPOと地域において産学連携してフィールドワークを推進し、国内外のNGOにおけるインターンシップ制度などの実践的教育を行っている。これらを基に生徒が広い視野に立ち、現代社会について主体的に考察し、理解を深めるとともに、倫理的信念を持ち、国際的視点と政治経済を理解したうえで地球市民として社会貢献することができ、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、民主的、平和的な国家・社会の形成者となり得るよう指導することができる公民科教員の養成を目指す。
	中学校1種	保健体育	人間科学科では、死生学・スピリチュアリティを中心とした分野と身体運動科学、スポーツ科学、健康科学を包含した体育学を中心としたカリキュラムとなっている。これらを基に生徒たちに明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることが指導できるとともに、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を養うための実践的な指導力をもった保健体育科教員の養成を目指す。中学校保健体育は、健やかな体の基礎となる身体能力と知識を定着させ、身に付けた段階に応じ運動を豊かに実践していくための資質や能力を育てるとともに、主として個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解できるようにすることを重視する。
人間科学科	高等学校1種	保健体育	人間科学科では、死生学・スピリチュアリティを中心とした分野と身体運動科学、スポーツ科学、健康科学を包含した体育学を中心としたカリキュラムとなっている。これらを基に生徒たちに明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることが指導できるとともに、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を養うための実践的な指導力をもった保健体育科教員の養成を目指す。高等学校保健体育は、心と体をより一体としてとらえることを重視するとともに生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を重視する。

教育学部における教員養成に関する理念			
<p>教育学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。実践力・教育力・人間力を持ち、「子ども理解」（乳幼児・児童・生徒・障がい児）を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる教師、学校・家庭・地域等で人々が互いの独自性を尊重し合い、共に学び成長し合えるインクルーシブ・コミュニティー形成のために、奉仕的なリーダーシップを発揮できる教師。</p>			
教員養成の目的	教育学科	幼稚園1種	乳幼児期の発達理論を修得させ、実習等で子どもたちとふれあい、体系的に子どもを理解させるとともに、あわせて児童の発達理論を理解した幼稚園教員を養成することを目指す。また、幼児教育学コースにおいては、教職課程とともに保育士養成課程も併設しており、子どもの成長を教育と養護の両面から支援できる幼稚園教員を育てる。
		小学校1種	小学校段階までの児童の発達理論を修得し、実習等で子どもたちとふれあい、体系的に子どもを理解するとともに、教育のプロとしての授業力、指導力を身につけ、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力等を身につけた小学校教員を養成することを目指す。
		中学校1種	社会 教育科学の主たるテーマである「社会と文化の継承・発展」を含む中学社会の教科に関する学習に加えて、教育学や心理学の理論、教育行政、あるいは授業研究に関する専門的な知識を生かした中学校教員を養成することを目指す。
		高等学校1種	地理歴史 教育科学の主たるテーマである「社会と文化の継承・発展」を含む高校地理歴史（世界史、日本史、地理）の教科に関する学習に加えて、教育学や心理学の理論、教育行政、あるいは授業研究に関する専門的な知識を生かした高等学校教員を養成することを目指す。
		高等学校1種	公民 教育科学の主たるテーマである「人間の形成」および「社会と文化の継承・発展」を含む高校公民（倫理および現代社会、政治・経済）の教科に関する学習に加えて、教育学や心理学の理論、教育行政、あるいは授業研究に関する専門的な知識を生かした高等学校教員を養成することを目指す。
		中学校1種	英語 初等・中等教育の連続性を十分に理解し英語教育を担える「実践力」と、年齢に応じた「子ども理解」に基づき英語教育について専門的知見を十分生かせる「教育力」、創造的なコミュニケーションを拓き、多様性を有する意味豊かな文化へ子どもたちをいざなうことができる「人間力」を兼ね備えた中学校教員を養成することを目指す。
		高等学校1種	英語 義務教育課程から続く英語教育の連続性を十分に理解し英語教育を担える「実践力」と、さらに高度な教科内容を研究し、知識・技能、思考・判断・表現において高い英語運用能力と専門性を備えた「教育力」、創造的なコミュニケーションを拓き、多様性を有する意味豊かな文化へ生徒をいざなうことができる「人間力」を兼ね備えた高等学校教員を養成することを目指す。
		特別支援学校1種	知的障害者・肢体不自由者・病弱者 障がいのある子どもへの指導を行い、その可能性を引き出すという特別支援教育の理念は、学校教育そのもののあるべき姿と大いに関連しているとともに、人間教育の原点について深く学ぶことにもつながる。こうした理念のもとに、特別支援学校のみならず、普通学級においても、配慮を必要とする幼児・児童に対して質の高い指導ができる教員の養成を目指す。
国際学部における教員養成に関する理念			
<p>国際学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教師の育成を目指している。</p> <p>1：「言語コミュニケーション」を指導できる教師 高度な英語運用力を備え、コミュニケーションの指導ができる教師の育成を目指す。</p> <p>2：「異文化理解・多文化共生能力」を備えた教師 異文化に対する感受性を持ち、多様な文化と共生できる教師の育成を目指す。</p> <p>3：「倫理的価値観」を備えた教師 キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得した教師の育成を目指す。</p>			
教員養成の目的	国際学科	中学校1種	英語 留学等において実際に英語を使用してコミュニケーションをとった豊富な経験をベースに、教職課程における学習を経て、異文化に対する感受性を持ち、多様な文化と共生することの意義を十分に理解した、「世界市民」たる中学英語科教員の養成を目指す。英語力と、海外事情およびグローバル化した社会への深い理解を兼ね備えるだけでなく、教師として求められる倫理的価値観を身に付け、義務教育における英語教育を丁寧に実践できる教師を育成する。
		高等学校1種	英語 高校英語科において、留学等において実際に英語を使用してコミュニケーションをとった豊富な経験をベースに、教職課程における学習を経て、異文化に対する感受性を持ち、多様な文化と共生することの意義を十分に理解した、「世界市民」たる高校英語科教員の養成を目指す。後期中等教育における実践的な英語教育を担うに十分な英語力と、海外事情およびグローバル化した社会への深い理解を兼ね備えるだけでなく、教師として求められる倫理的価値観を身に付けた教師を育成する。



理学部における教員養成に関する理念				
<p>理学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教員の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. "Mastery for Service"の理念を意識し、教員としての自覚・倫理観や他者との協調性を持ち、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもつ。</li> <li>2. 専攻分野における基礎知識の体系的な理解や専攻分野の基礎的知識を応用する柔軟な思考力及び専攻分野以外にも含めた幅広い知識による多角的な視点をもって教育活動を行う。</li> <li>3. 教育現場における様々な問題に対して、自らより良い解決方法を導き出すために専攻分野における知識の高い活用能力のみならず、情報収集力やデータ分析力、コミュニケーション能力、表現力などを備えている。</li> </ol>				
教員養成の目的	数理科学科	中学校1種	数学	<p>数理科科では、以下のような前期中等教育課程を担う数学教員の養成を目的とする。"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学的な見方を積極的に活用する態度を身につけさせる。生徒に対して基本概念や原理・法則を理解させ、また数学的な処理能力の基本を身につけさせる。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、線形代数 I・II、幾何入門、微積分I・II、確率統計入門、コンピュータ演習Aなどを選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、中学数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。</p>
		高等学校1種	数学	<p>数理科科では、以下のような後期中等教育課程を担う数学教員の養成を目的とする。"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学的な見方を積極的に活用する態度を身につけさせる。生徒に対して基本概念や原理・法則を理解させ、また数学的な処理能力を身につけさせる。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、線形代数 I・II、幾何入門、微積分I・II、確率統計入門、コンピュータ演習Aなどを選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、高校数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。</p>
	物理・宇宙学科	中学校1種	理科	<p>前期中等教育課程を担う理科教員の養成において、物理・宇宙学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、力学、電磁気学、量子力学、統計力学からなる体系としての物理学を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる基礎的能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、物理学序論、デモンストレーション物理学 II、基礎物理学実験 I、化学概論、基礎化学実験 I、生命科学 I、生命科学入門実験、基礎地学 I、地学実験Aなどを必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、中学理科教員に必要な物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験に関する内容を体系的に修得させる。</p>
		高等学校1種	理科	<p>後期中等教育課程を担う理科教員の養成において、物理・宇宙学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、力学、電磁気学、量子力学、統計力学からなる体系としての物理学を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、物理学序論、デモンストレーション物理学 II、電磁気学 I、基礎物理学実験 I、化学概論、基礎化学C、生命科学 I、基礎地学 Iを必修科目として配当し、基礎化学実験 I、生命科学入門実験、地学実験Aなどを選択科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、高校理科教員に必要な物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験に関する内容を体系的に修得させる。</p>
		中学校1種	数学	<p>前期中等教育課程を担う数学教員の養成において、物理・宇宙学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の基礎のみならず、数学と物理学が互いに影響しあい、補い合って発展していく過程を、授業を通して修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる基礎的な能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、線形代数 I・II、物理のための幾何入門、微積分学 I・II、物理と確率、コンピュータ演習A・Bなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、中学数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。</p>
		高等学校1種	数学	<p>後期中等教育課程を担う数学教員の養成において、物理・宇宙学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の基礎のみならず、数学と物理学が互いに影響しあい、補い合って発展していく過程を、授業を通して修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる基礎的な能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の修得を目指す授業科目として、線形代数 I・II、物理のための幾何入門、微積分学 I・II、物理と確率、コンピュータ演習A・Bなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、高校数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。</p>
	化学科	中学校1種	理科	<p>化学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、「無機・分析化学」・「物理化学」・「有機化学」の3つの分野の切り口から化学の最前線の知識・技術を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かし、基礎的な知識と技能を身につけさせることのできる中学校教員を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の習得を目指す授業科目として、基礎物理学A、基礎物理学実験I、基礎化学A、基礎化学実験I、生命科学I、生命科学入門実験、基礎地学I、地学実験Aなどを必修科目として配置する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配置することで、中学理科教員に必要な物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験に関する内容を体系的に修得させる。</p>
		高等学校1種	理科	<p>化学科は、"Mastery for Service"の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、「無機・分析化学」・「物理化学」・「有機化学」の3つの分野の切り口から化学の最前線の知識・技術を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かし、義務教育段階で学んだ学習内容の確実な定着を図ることのできる高校教員を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技術の習得を目指す授業科目として、基礎物理学A、基礎化学A、基礎化学実験I、生命科学I、基礎地学Iなどを必修科目として配置する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配置することで、高校理科教員に必要な物理学、化学、化学実験、生物学、地学に関する内容を体系的に修得させる。</p>

工学部における教員養成に関する理念				
<p>工学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教員の育成を目指す。</p> <p>1. "Mastery for Service"の理念を意識し、教員としての自覚・倫理観や他者との協調性を持ち、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもつ。</p> <p>2. 専攻分野における基礎知識の体系的な理解や専攻分野の基礎的技能を応用する柔軟な思考力及び専攻分野以外にも含めた幅広い知識による多角的な視点をもって教育活動を行う。</p> <p>3. 教育現場における様々な問題に対して、自らより良い解決方法を導き出すために専攻分野における知識の高い活用能力のみならず、情報収集力やデータ分析力、コミュニケーション能力、表現力などを備えている。</p>				
教員養成の目的	物質工学課程	中学校1種	理科	物質工学課程では、問題解決のための広い視野と能力を修得し、人間性豊かな人格を身につけた中学校教員を養成するために、基礎から専門まで一貫した教職課程のカリキュラムを編成する。エネルギー問題に密接に関係する物理学、化学を中心とする講義科目に加え、その実践ともいえるこれら科目の入門実験を通して体験的に知識を身につけていく。特に、エネルギー問題の解決には物理と化学両方の知識を組み合わせることが必要であり、それらの分野に関連するナノ物性量子力学、統計熱力学、物質化学、ナノスケール分析科学などの専門科目、さらにそれら学問の実社会への応用に関わる電気化学に関する科目群の学修を通して、次世代のエネルギー科学・工学の専門性を高めていくカリキュラムである。これらを修得することにより、現実社会の問題を見据えながら、新しいエネルギー社会に貢献し得る生徒たちを育てていくことができる人材を教育界に送り出すことを目的に、中学校一種理科の免許課程を設置する。
		高等学校1種	理科	物質工学課程では、問題解決のための広い視野と能力を修得し、人間性豊かな人格を身につけた高等学校教員を養成するために、基礎から専門まで一貫した教職課程のカリキュラムを編成する。エネルギー問題に密接に関係する物理学、化学の講義科目に加え、その実践ともいえるこれら科目の入門実験を通して体験的に知識を身につけていく。ナノ物性量子力学、統計熱力学、物質化学、ナノスケール分析科学などの学科の特徴を内容に含んだ専門性の高い講義科目、さらにそれらの実社会への応用に関わる科目群の学修を通して、次世代のエネルギー科学・工学の専門性を高めていくカリキュラムである。これらを修得することにより、現実社会の問題を見据えながら、新しいエネルギー社会に貢献し得る生徒たちを育てていくことができる人材を教育界に送り出すことを目的に、高等学校一種理科の免許課程を設置する。中学校一種理科の修得内容に加え、高等学校一種理科については、材料、デバイスに関するものづくり技術についても修得する。
	電気電子応用工学課程	中学校1種	理科	電気電子応用工学課程では、問題解決のための広い視野と能力を修得し、人間性豊かな人格を身につけた中学校教員を養成するために、基礎から専門まで一貫した教職課程のカリキュラムを編成する。グリーンイノベーション分野に密接に関係する物理学、化学を中心とする講義科目に加え、その実践ともいえるこれら科目の入門実験を通して体験的に知識を身につけていく。特に、グリーンイノベーション分野への貢献には、数学をベースに物理と化学両方の知識を組み合わせることが必要であり、それらに関連する電磁気学などの基礎科目と固体物性、電気回路、電磁波などの専門科目、さらにそれら学問の実社会への応用に関わるエネルギー変換や半導体などに関する科目群の学修を通して、次世代のグリーン科学・工学の専門性を高めていくカリキュラムである。これらを修得することにより、現実社会の問題を見据えながら、新しいグリーン社会に貢献し得る生徒たちを育てていくことができる人材を教育界に送り出すことを目標に、中学校一種理科の免許課程を設置する。
		高等学校1種	理科	電気電子応用工学課程では、問題解決のための広い視野と能力を修得し、人間性豊かな人格を身につけた高等学校教員を養成するために、基礎から専門まで一貫した教職課程のカリキュラムを編成する。グリーンイノベーション分野に密接に関係する物理学、化学の講義科目に加え、その実践ともいえるこれら科目の入門実験を通して体験的に知識を身につけていく。固体物性、電気回路、電磁波などの学科の特徴を内容に含んだ専門性の高い講義科目、さらにそれらの実社会への応用に関わる科目群の学修を通して、次世代のグリーン科学・工学の専門性を高めていくカリキュラムである。これらを修得することにより、現実社会の問題を見据えながら、新しいグリーン社会に貢献し得る生徒たちを育てていくことができる人材を教育界に送り出すことを目標に、高等学校一種理科の免許課程を設置する。中学校一種理科の修得内容に加え、高等学校一種理科については、グリーン科学・工学に関するものづくり技術と計測技術についても修得する。
	情報工学課程	中学校1種	数学	前期中等教育課程を担う数学教員の養成において、情報工学課程は、「Mastery for Service」の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の基礎のみならず、情報科学を通じて数学の応用側面を、授業を通して修得し、実社会における問題解決に繋げることのできる基本的な能力を身につけ、それを教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、計算幾何学、微積分学Ⅰ・Ⅱ、工学のための確率と統計、コンピュータ演習Aなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、中学数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。
		高等学校1種	数学	後期中等教育課程を担う数学教員の養成において、情報工学課程は、「Mastery for Service」の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の基礎のみならず、情報科学を通じて数学の応用側面を、授業を通して修得し、実社会における問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、それを教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、計算幾何学、微積分学Ⅰ・Ⅱ、工学のための確率と統計、コンピュータ演習Aなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、高校数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。
高等学校1種		情報	後期中等教育課程を担う情報教員の養成において、情報工学課程は、「Mastery for Service」の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、情報科学の基礎を身につけた上で、ネットワークシステムと情報システムに関する最先端の知識・技術を系統的に修得し、実学的な視点と発想力を教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、情報化社会と人間、情報工学概論、コンピュータアーキテクチャ、プログラミング実習Ⅰ、メディア工学基礎、キャリアデザイン論などを必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つように配当することで、高校情報教員に必要な情報社会及び情報倫理、コンピュータ及び情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現及び技術、情報と職業に関する内容を体系的に修得させる。	

知能・機械工学課程	中学校1種	数学	前期中等教育課程を担う数学教員の養成において、知能・機械工学課程は、“Mastery for Service”の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の素養だけでなく、情報通信や機械制御などの分野への幅広い応用を、授業を通して修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる基本的な能力を身につけ、それを教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、計算幾何学、工学のための確率と統計、コンピュータ演習Aなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つよう配当することで、中学数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。	
	高等学校1種	数学	後期中等教育課程を担う数学教員の養成において、知能・機械工学課程は、“Mastery for Service”の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、数学の素養だけでなく、情報通信や機械制御などの分野への幅広い応用を、授業を通して修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、それを教育の現場で活かすことのできる人材を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、計算幾何学、工学のための確率と統計、コンピュータ演習Aなどを必修もしくは選択必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つよう配当することで、高校数学教員に必要な代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を体系的に修得させる。	
生命環境学部における教員養成に関する理念				
<p>生命環境学部では、「関西学院大学における教員養成に関する理念と目的」に基づき、学部独自の教育理念を活かし、特に次のような教員の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Mastery for Service”の理念を意識し、教員としての自覚・倫理観や他者との協調性を持ち、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもつ。</li> <li>2. 専攻分野における基礎知識の体系的な理解や専攻分野の基礎的技能を応用する柔軟な思考力及び専攻分野以外にも含めた幅広い知識による多角的な視点をもって教育活動を行う。</li> <li>3. 教育現場における様々な問題に対して、自らより良い解決方法を導き出すために専攻分野における知識の高い活用能力のみならず、情報収集力やデータ分析力、コミュニケーション能力、表現力などを備えている。</li> </ol>				
教員養成の目的	生物科学科	中学校1種	理科	生物科学科は、“Mastery for Service”の理念を意識し、自然科学・科学技術の教育を通じて社会に貢献する姿勢をもち、微生物から高等動物に至る生物の基本法則を理解し、生命科学分野の課題に主体的に取り組み、解決できる能力を備え、生徒に生物分野への興味・関心を抱かせることのできる教員を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、基礎物理学A、基礎物理学実験Ⅰ、基礎化学A、基礎化学実験Ⅰ、生命科学Ⅰ、生命科学入門実験、基礎地学Ⅰ、地球環境科学実験などを必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つよう配当することで、中学理科教員に必要な、物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験に関する内容を体系的に修得させる。
		高等学校1種	理科	生物科学科は、中学校1種に記した理念に加え、修得した生命科学の知識と基礎的研究能力を活用でき、高校教育の現場で通用する授業実践能力を有した教員を養成することを目的とする。教職課程において、第1学年から第3学年にかけて、専攻分野の基礎知識や基礎的技能の修得を目指す授業科目として、基礎物理学A、基礎化学A、生命科学Ⅰ、基礎地学Ⅰ、生命科学入門実験などを必修科目として配当する。さらに、これらの授業科目の内容を応用する発展的科目を順次性を保つよう配当することで、高校理科教員に必要な物理学、化学、生物学、地学、生物学実験に関する内容を体系的に修得させる。
	生命医科学科	中学校1種	理科	生命医科学科では、生命科学を中心とする自然科学全般に関しての幅広い知識と健全な倫理観をもとに、生物としてのヒトの特徴を的確に理解し、修得した先端的生命科学の知識を問題解決のために活用する応用力をもった教員養成に則したカリキュラムを編成している。具体的には、講義を通じて生物学の基本原則を広く修得させると共に、基礎的な物理学、化学、地学領域をカバーする科目を履修させて幅広い自然科学の基礎知識を養う。また、実践的な実習科目を通じて、自然科学研究の実践を体感・理解させ、知識を活用できる力を養う。教職課程カリキュラムでは、第3学年までに生物学を中心とする自然科学の基礎的な科目から、発展・先端的な科目まで順次履修できるように配慮している。第1学年から第3学年にかけて講義科目が減少するに従って、実験科目が生命科学入門実験（第1学年2単位）、基礎医科学実験（第2学年6単位）、先端医科学実験（第3学年16単位）と増加するように設定されており、修得した知識を実際に活用し、応用する能力を養えるよう配置している。以上により、中学校理科教員に必要な知識および応用力、技能を体系的に修得できる。
		高等学校1種	理科	生命医科学科では、生命科学を中心とする自然科学全般に関しての幅広い知識と健全な倫理観をもとに、生物としてのヒトの特徴を的確に理解し、修得した先端的生命科学の知識を、より発展的に問題解決に活用する能力をもった教員養成に則したカリキュラムを編成している。具体的には、講義を通じて生物学の基本原則を広く修得させると共に、基礎的な物理学、化学、地学領域をカバーする科目を履修させて幅広い自然科学の基礎知識を養う。また、実践的な実習科目を通じて、自然科学研究の実践を体感・理解させ、知識を活用できる応用力を養う。教職課程カリキュラムでは、第3学年までに生物学を中心とする自然科学の基礎的な科目から、発展・先端的な科目まで順次履修できるように配慮している。第1学年から第3学年にかけて講義科目が減少するに従って、実験科目が生命科学入門実験（第1学年2単位）、基礎医科学実験（第2学年6単位）、先端医科学実験（第3学年16単位）と増加するように設定されており、修得した知識を実際に活用し、応用する能力を養えるよう配置している。以上により、高等学校理科教員に必要な知識および応用力、技能を体系的に修得できる。
	環境応用化学科	中学校1種	理科	環境応用化学科は、物質の「分析評価・機能探索・創成」に関する化学や地学の最先端の知識・技術を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かし、基礎的な知識と技能を身につけさせることのできる中学校教員の養成を目指している。そのため、化学と地学を中心とする自然科学の基礎を十分に学習し、環境問題に取り組むための基礎能力を身につける。そして、ミクロな化学的視点からマクロな地学的視点まで幅広い視点から地球・環境を捉え、具体的に評価するための知識や技術、環境・エネルギーの観点から重要な環境物質変化のメカニズムや環境問題の解決に資する物質の機能に関する知識や技術、さらに地球環境に優しく持続可能な社会を実現するため、環境に優しい機能性材料を創成するための知識や技術、を身につけ、総合的な視点から地球環境問題の解決に貢献できる能力の養成を図る。
		高等学校1種	理科	環境応用化学科は、物質の「分析評価・機能探索・創成」に関する化学や地学の最先端の知識・技術を修得し、それらの実社会への応用や問題解決に繋げることのできる能力を身につけ、その能力を教育の現場で活かし、基礎的な知識と技能を身につけさせることのできる高等学校教員の養成を目指している。そのため、化学と地学を中心とする自然科学の基礎を十分に学習し、環境問題に取り組むための基礎能力を身につける。その後、ミクロな化学的視点からマクロな地学的視点まで、幅広い視点から地球・環境を捉え、具体的に評価するための知識や技術、環境・エネルギーの観点から重要な環境物質変化のメカニズムや環境問題の解決に資する物質の機能に関する知識や技術、さらに地球環境に優しく持続可能な社会を実現するため、環境に優しい機能性材料を創成するための知識や技術に習熟し、幅広い視点からより発展的に地球環境問題の解決に貢献できる能力の養成を図る。